

日本海洋人間学会大会に 「内航海運 PR」パネル

— カンパチ船長の内航船生活案内など —



2018年9月22日、23日、東京海洋大学品川キャンパスで日本海洋人間学会(JSMITA)の第7回大会が開催されました。

日本海洋人間学会は2012年4月に創立されたばかりの新しい学会です。日本学術会議協力学術団体にも指定されています。

海に関係のある団体は非常に多く、全国に様々なジャンルで、大小存在しますが、海洋レジャーやフリーダイビング等の専門家と並んで海運現場で働く船員の健康問題にも取り組まれる集まりは非常に貴重です。

産業の中では、船員は人数で表されたり、海上労働力やコストに置き換えられがちですが、人生の大半を洋上で過ごす船員一人ひとりの現実を、安全や健康などをテーマにシンポジウムで発表されることは、非常に大切であると考えています。

島国の物流インフラを海上から支える船員たちと、彼らを支える陸上社会とを繋げていくことが、島国日本の未来、市民社会と産業を大きく発展させていけると信じています。

今回、全日本内航船員の会が夏に開催した「内航船の日(=7.15)」のイベント「海から届ける写真展@大黒湯」で製作・展示した『内航海運 PR パネル』の2作品、「内航貨物船ってどんな船? ~こうして船はやってくる!!~」と「カンパチ船長の内航船生活案内」を、学会大会会場の受付でも展示させていただきました。

いつも様々な方からの応援によって支えられています。

内航海運 PR へのご理解と応援に感謝を申し上げます。

ありがとうございます。

(全日本内航船員の会 事務局)